20230818　猪高の森自然観察会　　2023 年 8 月報告書

猪高の森自然観察だより　8 月号

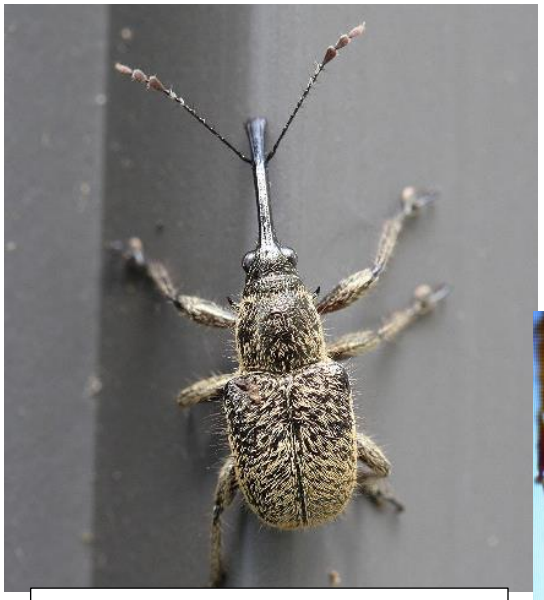
開催日時：2023 年 8 月 18 日（金）
天候：晴　　気温：最低 26.3℃、最高 33.5℃（名古屋に於いて）
テーマ:定例会下見のため、テーマはありません。8月は定例会はありません。
参加者構成:自然観察グループ員5名、他1名
コース予定:森の集会所 → 井堀の大クス→ 井堀の下池→ 井堀の谷地田（棚田）→
周回する舗装道路→ 森の集会所　　（左上の画像はハイイロチョッキリ）

ここ東海では、連日猛暑日を含む暑い日が続いています。東北、北海道や九州では、雨の日が続いています。台風７号が縦断し、各地で記録的な天候が発生、日本列島全体が不順な気候に包まれている感があります。

この時期は７月に引き続き花が少ない季節に当たります。植物たちは秋の実りに向けての準備が進んでいます。

○ハイイロチョッキリが枝を落としています。

散策路にコナラの枝先が、今月の初め頃から落ちているようです。切り口は折れたのではなくきれいにカットされています。枝にはドングリが必ず付き、そのハカマには「ぽつっ」と小さい穴が開いているようです。これは「ハイイロチョッキリ」と呼ばれるゾウムシの仲間が、ドングリに卵を産み、枝を切り落とした姿です。ドングリを割って見ると、卵があったり、すでに孵化した幼虫が、その実を食べていたりします。幼虫は、秋に土に潜って蛹になり、翌年７月頃から羽化して出て来ます。



成虫は 1cm にも満たない大きさ。（画像は「虫ナビ　ハイイロチョッキリ」より。

右の画像
落ちているドングリにはハカマに小さな穴があいています

ドングリを割って見ると穴には小さな卵が産み付けられていました。(8 月上旬撮影)

〇秋の稔りは豊かかな？緑の若い実はたくさんありました。
　どれが何の実かわかりますか？答えは、最後のページにあります。

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

〇アカメガシワの種はこんな風に付いていました。花以外にも「蜜」が出る！？

初めて見ました。

アカメガシワは雌雄異株。別々の花は確認していましたが、種がはじけて、剝き出しになることは、知りませんでした。

アカメガシワには「花外蜜腺」と呼ばれる、花以外のところに蜜腺があります。葉の基部に一対はっきりとしたものがあるほか、若い葉では、縁の側脈が辿りついた場所にあります。

アカメガシワはこの蜜腺にアリを呼び寄せ、周囲をパトロールさせることで、葉を食害しに来る虫たちを防いでいるとされています。

〇ミノムシに出会いました。

小さい頃、みのを剝いて、きれいな毛糸や細かくした折り紙などと一緒に箱に入れ、きれいな蓑を作らせて遊びました。

そんな身近にいたミノムシも滅多に出会わない、「久しぶり」の昆虫になってしまいました。

代表的な種類は「オオミノガ」と「チャミノガ」。「オオミノガ」は 1990 年代から激減しました。これは、外来種のオオミノガのみに寄生する「オオミノガヤドリバエ」のためです。

最近は、多少増えつつあるようですが、以前のように見られるようなるのでしょうか？

上の画像のミノムシは、枯れ葉を使った蓑や大きさなどから「オオミノガ」と思われます。

左の画像は、蓑から顔を出したミノムシの幼虫。

頭部の特徴から「オオミノガ」です。（上の画像とは別の個体です。）

〇幼虫たちにも出会いました

左は「アオバハゴロモ」、右は「イナゴの仲間」の幼虫と思われます。
これから、秋に向かい、何回か脱皮をして成虫になるのでしょう。
成虫もこの時期になれば、見受けられるようになります。

・７月号で紹介した準絶滅危惧種「アカイロトリノフンダマシ」にも別の場所で、アミガサハゴロモ、アオバハゴロモ（成虫）、オオツマグロヨコバイなど、花の少ないこの時期は昆虫たちが主役です。

次回観察会は　９月 24 日（日）

９：30～　森の集会所集合です。

名東自然倶楽部の HP では毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。
http://sizen.ciao.jp/ から是非ご覧になってください。
（右上の自然観察グループをクリックしてください。）

2・3 ページの答え

①ゴンズイ　②トウネズミモチ　③ヒサカキ　④カクレミ　⑤サンゴジュ　⑥カキ
⑦ムクノキ　⑧サワフタギ　⑨ムラサキシキブ　⑩カマツカ　⑪アベマキ
⑫スイカズラ　⑬センリョウ　⑭アラカシ　⑮ツバキ